

東日本大震災から5年が経過しました。記憶は年と共に忘れがちになり、防災意識も薄らいでいきますが、東日本大震災は、天災、人災と共に災害意識があまりにも想定外で、甚大な被害をもたらし、歴史の一部として体験者の心の中に残っています。今もなお地域の復興が望まれます。日本は、メンタルパワー、マテリアルパワーも十分に備わっており、教育の力も手伝って意志の強さを見せていると思います。

昨年10月優良事業所視察研修会に参加して、積水ハウス東北工場、トヨタ自動車大衡工場を視察して参りました。積水ハウスでは、地震に強い家づくりとして、地盤に合わせた対策、災害時の停電に対する対策、免震体験実験、外壁強度実験、安全な住まい作りのための品質管理の向上に努めているのには感心しました。災害に対していかに減災につなげるか、これからも大きな課題となっているのが現状です。

当社六丁の目製造工場においては、安心、安全な製品のための製造管理と共に防火、防災にも心がけ

ています。施設の管理のための安全パトロール、安全衛生委員会を基本に、自衛消防隊を編成し、通報連絡担当から初期消火、避難誘導、安全防護、応急救護担当まで、役割分担を明確にしています。地震時に対応できる体制づくりを視野に入れながらの避難訓練を実施しています。毎年行われる消防技術研修会においては、屋内消火栓操法で過去、4回最優秀賞をいただきました。日頃からの防火に対する心構えの表れとして、自負しております。防災に対して真摯な対応と共に「備えあれば、憂いなし」という格言どおり、日頃から非常時の準備を怠らないように、緊急事態の災害が起こった時も、慌てなくて済むように努めていきたいと考えています。

災害が起こった時、いかに被害を軽減させるか、過去に起こった大火災、地震などを再認識しながら検討し合い、自助、共助の精神を持って防災にあたるのが、大切だと考えています。

最後に、東日本大震災で被災された地域のさらなる復興を願い、また活性化を望むところです。



消防用設備の点検、及び工場内の安全パトロールを実施しています。常に危険な所はないかチェックしています。



製造工場、商品センター、レストラン合同の安全衛生研修会の様子。



安全衛生委員会では、衛生管理の問題、安全な職場を目指して、テーマを決めて話し合いをしています。



消防技術研修会の屋内消火栓操法の部において4回最優秀賞をいただきました。